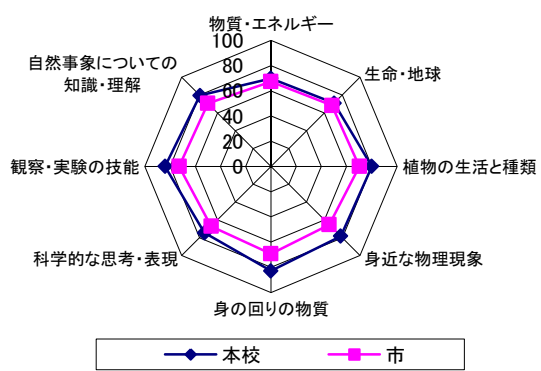


宇都宮市立豊郷中学校 第1学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	69.8	67.3
	生命・地球	70.9	68.4
	植物の生活と種類	80.0	70.2
	身近な物理現象	78.2	65.4
	身の回りの物質	82.9	69.3
観点別	科学的な思考・表現	74.5	67.1
	観察・実験の技能	84.0	72.8
	自然事象についての知識・理解	79.6	70.8



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	本校の正答率は市の正答率を2.5ポイント上回っている。小学校での既習内容である「てこのはたらき」「電流の利用」からの出題であったが、他領域と比べると上回るポイントは高いほうではない。特に、てこの規則性を利用した道具のはたらきの理解が十分とはいえない。知識を日常生活の現象に結びつけて考えることが身についていないと思われる。	「てこのはたらき」に関しては、生徒が理解しにく内容である。3年で学習する「仕事の原理」と合わせて復習をさせ、理解の深化を図りたい。また、「電気の利用」に関しては、2年で学習する「電気」や3年で学習する「エネルギーの変換」へつながるように、復習させていきたい。
生命・地球	本校の正答率は市の正答率を2.5ポイント上回っている。小学校での既習内容である「大地のつくりと変化」からの出題であったが、上記同様、他の領域と比べると、上回るポイントは高くはない。特に、れき岩・砂岩・泥岩の岩石の特徴や、粒の大きさによって層をつくることの理解が不十分である。	「大地のつくりと変化」は1年で学習する「地層のでき方」や「堆積岩」の内容につながる。小学校での学習内容を復習しながら、知識を広げていきたい。 「地震」に関しては、どの生徒も高い関心を持っている。地震が起こるメカニズムなどを知り、防災への意識を高めていきたい。
植物の生活と種類	本校の正答率は市の正答率を9.5ポイント上回っている。植物の観察やスケッチに意欲的に取り組む生徒が多く、関心が高い。「植物の分類」において、単子葉類と双子葉類の分類ができ、根や葉脈のようすを指摘する問題の正答率は67.0%で、この領域の他の問題と比べると低かった。	この領域は、2年で学習する「動物のからだのしくみ」と3年で学習する「生命の連続性」につながっているため、系統だてて指導していきたい。 特に、植物の名前や分類ができるように、身の回りの植物に親しみがもてるような手だてを考えていきたい。
身近な物理現象	本校の正答率は市の正答率を12.8ポイント上回っている。生徒の多くが苦手意識をもっている「光の性質」からの出題であったが、比較的正答率は高かった。 光がガラスを通り空気中へ出る道筋の問題の正答率は72.6%で、この領域の他の問題と比べると低かった。	この領域(光・音・力)は、目に見えにくい自然現象を扱うので、わかりにくい内容である。苦手意識をなくすために、光の進み方を調べる実験や凸レンズのはたらきを調べる実験に時間を十分にとっていきたい。また、問題演習をすることで知識の定着を図ってきたい。
身の回りの物質	本校の正答率は市の正答率を13.6ポイント上回っている。気体の発生や金属の性質、プラスチックの性質についてはよく理解できている。酸素の性質を指摘する問題の正答率は76.5%で、この領域の他の問題と比べると低かった。いろいろな種類の気体の性質が整理されず、混同していると考えられる。	身近なものを使って実験を行うことで、さらに生徒の興味・関心を喚起していきたい。そして、実験結果から科学的に思考する力を育て、身の回りの事象についても科学的にとらえることができるようにさせたい。 質量パーセント濃度や密度に関しては、理解しにくい内容なので、計算問題を反復させ理解の深化を図りたい。